

小児科紹介

— 当院小児科における取り組み —



小児科 部長 重見 律子

当科では常勤3名、非常勤2名の医師が勤務し、一般外来、予防接種、乳幼児健診、専門外来、および松山市救急輪番日の一次および二次小児救急に携わっています。小児医療においては、1)救急疾患、common diseaseに対する適切な診察と治療、2)予防接種や健診を通じた家族への育児指導、予防教育、3)専門外来でのspecialistとしての検査、治療が重要です。そこで、この3点を中心に当科における取り組みをお話したいと思います。

1) 救急疾患、common diseaseに対する適切な診察と治療

一般病院では、小児のcommon diseaseといえば感染症とアレルギー疾患です。特に新生児や乳幼児では、急変したり、すぐに処置が必要な場合が少なくなく、外来トリアージは非常に重要です。当科では救急外来だけでなく、普段の外来においてもトリアージを行う看護師を受付に配置し、患者の年齢、呼吸状態や外見上の重症度などを判断したうえで、診察の順番や緊急の処置の必要性を決定するようにしています。

また、感染力の強い麻疹、水痘、嘔吐下痢症などについては、他の患者との隔離を早めに行い感染予防に努めていますが、これも看護師の大切な仕事です。外来スタッフ一同でトリアージ・感染予防の重要性を認識したうえで、その方法が適当であったか、また改善していくべき点がないかなど、適宜話し合いを行いながら、よりスムーズで安全な外来運営ができるよう心がけています。

2) 家族への育児指導、予防教育

Hibワクチン、肺炎球菌ワクチン、近々始まるロタウイルスワクチンなど、小児期に接種可能な予防接種が増え、今秋には生後2か月から1歳までに6種類もの予防接種を受けられるようになります。この数年、ワクチン接種の中止、再開などで混乱もありましたが、疾患を予防する大切さや予防接種に対する正しい知識を家族に伝えることが、小児科医の大切な仕事であることには変わりはありません。

また、核家族化とともに育児の伝承が減少したせいか、育児やしつけの点で小児科スタッフが家族に対して“Do”や“Do not”を教える機会もしばしばあります。外来で予防接種の受け方や育児指導を行うとともに、最新の情報を外来前の掲示板やホームページに適宜載せ、家族への啓蒙を行っています。

3) 専門外来

循環器外来：隔週水曜日午後 太田

川崎病、先天性心疾患、不整脈、心雑音・心電図異常などの学校健診異常の患者に対して、心エコー・負荷心電図などの検査を行っています。カテーテル検査などの専門的な検査が必要な場合には、おもに愛媛大学医学部小児科に紹介しております。

神経外来：毎週木曜日午後 重見

てんかんを含めた痙攣性疾患、運動や言語・精神発達の遅れ、注意欠陥多動障害や広汎性発達障害などの軽度発達障害を対象としています。特に軽度発達障害は最近注目されており、学校生活や日常生活に問題のある幼児・学童への対応の仕方を指導し、必要であれば薬物治療を行っています。教育的な配慮が必要な場合には担任教諭やコーディネーターに連絡をとったり、県こども療育センターにて指導をしていただいています。てんかんの治療については、患者のQOLを考慮した上での治療と指導を行うようにしております。

アレルギー外来：毎週金曜日午後 高島

現在、アレルギー疾患を持つ小児は多く、専門的な指導が必要な患者が少なくありません。アトピー性皮膚炎や食物アレルギーでは、患者の症状によって食事制限の程度が違います。具体的な食事内容の指導が必要になるため、栄養科の協力を得て、家族に具体的な食事指導を行うようにしています。また、強い食物アレルギーを有する患者の制限解除にあたっては、入院または外来で食物負荷試験を行い、解除が可能かを判断しています。

気管支喘息に対しては、喘息手帳を記入していただき、家族の協力と患者のアドヒアランスを向上させ、喘息のコントロールを良好にするよう働きかけています。長期的には、呼吸機能検査を積極的に取り入れ、治療の目安にしています。最近小児でもステロイド吸入が喘息治療の重要な位置を占めていますので、吸入法については薬剤師に依頼し、導入時だけでなく導入後も定期的に吸入指導を行っていただいています。

ほかに、甲状腺疾患・低身長・小児糖尿病などの内分泌疾患や血液疾患などの、慢性疾患の治療も行っております。

入院病棟は4階南病棟で、外科との混合病棟です。感染症が多いため、入院期間が短く入れ替わりが激しい、手がかかる、という点で、病棟のスタッフには大変忙しい思いをさせていますが、子供の笑顔や元気になった姿は、疲れを吹っ飛ばしてくれます。病棟でも、感染予防に留意しながら、患者と家族が不安なく入院生活を送れるよう、スタッフ共に心がけています。

当科は常勤医師3名と少ないため、やれることの限界はありますが、医師同士、スタッフ同士が常に相談し、他科や他部署の協力もいただきながら診療にあたっております。今後ともご指導のほど、よろしくお願いいたします。

